

I 「しかし、あなたがたはキリストを、このようには学びませんでした」：20。

キリスト「について」・キリスト「のこと」(第Ⅱ版の訳)ではなく、御言葉(66巻の旧新約聖書)・祈り・生活の中で「キリストご自身」を深く学ぶ事が大切。キリストの語られる御声を聴き、キリストその方を学び取る直接的な人格的な学び。キリストのこと、キリストについて学ぶ事から「キリストご自身」を深く学び、キリストと人格的に深い交わりを持つ者へと変えられ続けますように。

1. : 17-19とのつながり=主にある歩みは、好色に身をゆだねて、あらゆる不潔な行いをむさぼる歩みではなく、聖なる歩みに変えられ続けるもの。

私達の主は、私達の為にクリスマスに生まれ(神が人となられ)、十字架で死に、

①私達の罪を贖う、償う、赦すだけではなく、

②私達の心を新しくし、聖い力を与え、罪の奴隷の歩みから解放し、神の喜ばれる歩みに導かれる方。

主は、主と霊的に繋がっている私達に霊的な養分を与え、また、私たちと共に歩んで下さる素晴らしい方!

2. 「学ぶ」。

①「わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい(原語：弟子になる、弟子入りする)」そうすればたましいに安らぎ(律法主義、窮屈ではない)が来ます」マタイ11：29。

②4：20の「学ぶ」の原語の意：学ぶ、聞いて知る、確かめる、体験により学ぶ、習(体)得する、習熟する、覚え込む、理解する。「私は、どんな境遇にあっても満ち足りることを学びました(体得、会得しました)」(ピリピ4：11)。

「キリストは御子であられる方なのに、お受けになった多くの苦しみによって従順を学び」ヘブル5：8。私達は、いつになっても主を学ばない者ではなく、主ご自身を学び続け、真理を知り続けるように祈りたい。主の御言葉を味わい、御言葉の素晴らしさを知り続け、祈り、主と交わり、日常生活、喜びや苦しみの中で主を体験し、主ご自身を深く知り続けることができますように。

II 「ただし、ほんとうにあなたがたがキリストに聞き、キリストにあって教えられているのならばです。

まさしく真理はイエスにあるのですから」：21。

キリストを学んでいると言いながら、その偉大な教師(主)から

①義認、罪の赦しのことしか聞かず、

②御聖霊による新しい生活、歩みの聖化についての教えを受けない者は、主の霊的な学校の真の学生、弟子ではない。

1. 「まさしく真理はイエスにあるのですから」。救い主の名が揚げられ、キリスト者が聞き、教えを受ける、生きた真理の教科書が救い主ご自身という人格である事が強調されている。しかも、救い主が「キリスト」という職名ではなく、「イエス」という歴史上の名称(パウロが、主の事を「イエス」と言う時は、本当に歴史上の出来事、偉大な神であるのにクリスマスに実際に人となられ、この世に住み歩まれた方としてのイエスを強調する時)で呼ばれているのは、やはり具体的な、生活上の模範として主の事を教えたいから。「キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範(模範の前に贖いの恵み)を残されました」(Iペテロ2：21)。

「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです」(ヨハネ14：6)

2. 「ほんとうにキリストに聞き」。私達は、ほんとうにキリストに聞いているだろうか。

「ほんとうにキリストに聞く」とは=主の御言葉に聞く事です。自分の言葉、世の言葉、悪魔の惑わしの言葉に耳を傾け、振り回れていないでしょうか。ほんとうの真理である主の御言葉に、静かに、深く、心の耳を傾けているでしょうか。

主が、その聖書の箇所（文脈）で、本当に語っておられる事を、本当に聞こうとしているでしょうか。
「ここの（ペレヤ）ユダヤ人は…非常に熱心に御言葉を聞き、はたしてそのとおりかどうかと毎日聖書を調べた」（使徒17：11）。

本当に主に、御言葉に聞く事をせずに、やろうとする事、語る事が先行していないでしょうか。

主の御言葉に聞き、また祈りの中で静まり、主が語り掛けて下さる御心を知る事ができますように。

また、キリストご自身が立てられた説教者（4：11）を通して語られる御言葉に耳を傾け、キリストに聞く事が出来ますように。

「あなたがたは、私たちから神の使信のこぼれを受けるとき、それを人間のこぼれとしてではなく、事実どおりに神のこぼれとして受け入れてくれたからです。この神のこぼれは、信じているあなたがたのうちに働いているのです」（Iテサロニケ2：13）。

Ⅲ「キリストにあって教えられているのならばです。まさしく真理はイエスにあるのですから」：21。

「キリストにあって教えられている」=キリストとの命の結びつきと生ける交わりの中で教えられている。

私達は、どうでしょうか。日々主との霊的な命のつながりと深い交わりをもって、主から真理、真実を教えられているでしょうか。一方的に祈りの言葉を投げかけるだけでしょうか。

それとも、主との交わりの中で、静まり、主の語り掛けを心で聞いているでしょうか。

主は私達の正直な語り掛けを喜ばれるが、主も私達に語り掛けたいと願っておられる。それが交わり。

最近の私達は、他の事をやり過ぎて、素晴らしい主との深い交わりが途絶え、主に教えられる事がストップしているでしょうか。祈りましょう。

「ほんとうに」キリストに聞き、キリストにあって教えられ、キリストご自身を、真理の御言葉を学び、主と深く交わりつながり、もはや、主と出会う前の歩みとは違い、キリストにある新しい歩みを踏み出すことが出来ますように。